Y-MOT ネットワーク通信
山形大学大学院
理工学部研究科
ものづくり技術経営学専攻
平成25年8月31日 第15号
〒992-0039　山形県米沢市門東町3丁目1番47号
発行:(NPO)Y-MOTネットワーク TEL:0238-40-0761
発行責任者（代表）:渡邉　毅

「米沢市国際交流協会（YIRA）の活動」

（特別寄稿）　米沢市国際交流協会事務局長　横山　昭子　氏

米沢市国際交流協会は、市民の国際交流の関心を高める活動を行い、また外国人との相互理解や友好親善を行う目的で、平成8年3月に設立され、事務局は米沢市役所秘書広報に置かれました。英語名は、通称ＹＩＲＡ（ワイラ）と呼ばれています。

平成18年には、10周年記念として「おしょうしな国際交流」を開催。また、平成22年に米沢の地図や生活情報を多言語でまとめた「多言語生活情報マップ」を作成するなど、様々な交流活動や、外国人支援活動を行ってきました。

設立から15周年を迎えた平成23年10月1日、山形大学工学部街中サテライトの隣に事務局を移転し、それに伴い、今まで米沢市秘書広報課課長の役職であった事務局長という職に就任いたしました。この時点から、米沢市国際交流協会職員である事務局員と事務局長、アメリカ出身の米沢市国際交流員が業務を行い、米沢市秘書広報課は業務協力と連携を行う、という体制になりました。協会設立当初からの念願であった、事務所移転と民間団体への自立という目標を果たし、新しいスタートを切ったわけです。

事務所を開設と同時に、街中の賑わい作りに少しでも貢献できるよう、米沢市国際交流プラザもオープンしました。この国際交流プラザを広く市民の皆さまに知って頂けるよう、愛称を公募し、「アーカス」という名前が選ばれました。「アーカス」とは、ラテン語で「虹」という意味です。この国際交流プラザが、多様な国の人が集い、交流できる場所になってほしいとの思いが込められており、事務所の外の看板には虹をモチーフにして「アーカス」という文字が入っております。

平成23年10月1日に行われたオープニングセレモニーと、国際交流プラザ開所式、また平成24年2月には15周年記念「国際交流のつどい」を開催し、盛大に15周年を祝うことができました。

事務局長の横山昭子さん

通称 YIRA（ワイラ）
Yonezawa City
International
Relations
Associationの略称
です。

我々の行う事業は、①国際交流事業、②文化紹介事業、③外国人支援事業といった3つに分けることができます。

・国際交流事業は、文字通り、交流を行う事業です。毎年開催して、多くの参加者があるのは、「いも煮交流会」です。芋煮会は、山形県ならではの風物詩なので、多くの外国人が参加してくれます。「山形の中で好きなものは？」と質問すると、多くの外国人が「芋煮会が好き」と答えるほど、人気がある行事の一つです。その他にも、臼と杵を使って餅つきをする「餅つき新年会」、中国の中秋節や春節などの季節ごとに開催する「持ち寄りポットラック・パーティー」、月に一度、交流と文化紹介を楽しむＹＩＲＡカフェなど、様々な事業を通して、交流活動を行っています。

また、毎月「英語・中国語・韓国語・にほんごでランチ」をそれぞれ開催し、お昼を食べながら、各言語で交流を図っています。国際交流事業の一環として、山形大学や県内留学生との交流も行っており、今年の2月には、「雪灯篭まつり」に参加し、山形大学留学生センターと共催で、雪灯篭づくり、地元野菜の味噌汁とおにぎりでの昼食会、甲冑の試着体験などを行いました。米沢市国際交流協会の会員と、県内留学生との交流が深まったと同時に、日本文化の紹介もすることができ、参加者には大変喜ばれた交流会でした。

国際交流の集い

雪灯篭祭り

・文化紹介事業としては、外国人に日本文化を紹介するだけでなく、様々な外国文化を日本の方に紹介する事業も行っています。外国の文化や料理を紹介する「国際理解講座」は、日本人には大変人気のある講座となっています。

平成24年12月には、日本酒と料理との相性を学びながらテイスティングを体験するという理解講座を開催しました。6か国の外国出身者と日本人参加者とともに、日本酒を楽しみながら手巻き寿司で交流を図ることができ、大変好評を博しました。このような大きな講座は、山形大学工学部街中サテライトを会場にしています。

・米沢市国際交流協会事業の中でも、特に重要なのが外国人支援事業です。これは、交流事業や文化紹介事業と違って華やかな活動ではありませんが、外国出身者が米沢で暮らしやすくなるようなサポートを行う大切な事業です。

前述した「生活情報マップ」や「米沢冬の暮らしかた情報」、「ゴミ分別表」などを、市役所と連携して多言語で準備し、米沢で生活を始めた外国出身者に配布しています。

また、日本のマナーや文化を学ぶ「外国人サポート講座」や災害時に外国人への情報伝達方法を学ぶ「やさしい日本語」といった研修会を通して、外国人が暮らしやすくなるような支援活動を行っています。また毎週火曜日には、「ＹＩＲＡ日本語教室」を開催し、生活に必要な日本語を学ぶ場を提供しています。

現在、米沢市国際交流協会には、英語が母国語の米沢市国際交流員、中国出身の事務局員が常駐しており、各言語での相談にすぐに対応できるようになっています。昨年から英語と中国語での直通相談電話も整備し、様々な生活相談を受け付けております。

平成25年8月末現在、米沢市国際交流協会は、個人会員325名、団体会員38団体の会員数となっています。今後も活発に事業展開し、より多くの方にＹＩＲＡの活動を知っていただきたいと思います。皆さんも、ぜひ一度ＹＩＲＡに遊びにいらしてください。米沢市の国際交流を一緒に盛り上げていきましょう。

日本語教室

『私とＭＯＴ』シリーズ編

MOT六期生　公益財団法人山形県企業振興公社　奥山　泰宏　氏

ものづくり振興部での
奥山泰宏さん

・MOT入学のきっかけ

2009年末、何気なく新聞折り込みチラシを眺めていたら、偶然にもMOT社会人特別選抜入試案内を見つけました。詳しく読んでみると興味のある内容ばかりで、インターネットでMOTについて調べてみると、以前 仕事でたいへんお世話になった高橋幸司先生、柴田孝先生、小野浩幸先生が教えている講義があるとのことで、「なんだか、面白そうだな。」と思いました。

当時から、自動車産業振興担当をしており、今後の方策等についてMOTで学んだことを活かしてまとめてみようと考え、一念発起し、仕事をしながら勉強・研究するという二足のわらじを決意しました。同じ時期に、娘の小学校のPTA役員就任のお誘いをいただきましたが、あれこれ役職を引き受けては、学業に専念することが出来ないと思いお断りさせていただきました。家族もせっかくの機会だから頑張ってやってみればと背中を押してくれましたことが、とてもうれしく思いました。

・在学中

在学中、授業開始のオリエンテーションの際に、Y-MOTの渡邉会長から学年の最年長者が級長をすることになっているとのことで、指名いただきまして、2年間務めさせていただきました。

1学年上下の級長は、人生の大先輩の方々でいろいろと相談させていただき、2学年合同のコンパや追い出しコンパ等を積極的に開催し、社会人、学生、留学生とのコミュニケーションも図れたかなと思います。また、コースはグローバル戦略コース(世界俯瞰の匠)を選択しました。これからはますます企業のグローバル化が加速され、このままでは県内製造業の存続も危うくなるとの危機感と、授業で海外へ行って実地研修ができるということからです。幸運にも2年間ベトナム北部と南部へ行くことができて貴重な経験となりました。特に現場実習中、食あたりになり実習先の医務室のベッドで静養させてもらったことはいい思い出です。

週末の米沢までの通学と、演習課題のレポート提出は、決して楽なものではありませんでしたが、違う世代の個性派ぞろいの同期生にも恵まれ、有意義に過ごすことが出来ました。レポート作成はリビングで子供たちの宿題と一緒に肩をならべて楽しみながら取り組めました。

印象深い講義は、事例研究演習で地ビールについて、地ビールの先進企業訪問や学生が共同してマーケティングや財務等の各種分析を行い様々な刺激を受け、企業の分析する手法を改めて勉強させていただきました。MOTで学んだ知識、論理的思考で、何とか修士論文も自動車産業についてまとめることが出来ました。

・卒業して

卒業してからも引き続き自動車産業振興の担当をしており、各種自動車関連展示商談会、個別企業のマッチング等を行っております。卒業研究した仮説に基づき、企業を層別して支援を行った結果、新たな自動車関連企業とティア1として取引できた企業も出てきました。他に、海外展開支援の担当も兼務しており、自社製品を持つ企業の海外販路開拓や海外進出支援を行っています。

具体的には、全国で最も海外展開が遅れていると思われる県内企業を、中国やASEAN各国へ海外ミッションを企画し派遣してます。訪問先は進出した際に取引先となりうる日系大手メーカーや、同規模の中小企業、現地ローカル企業、レンタル工場等です。現地ローカル企業は、日系企業と取引を拡大することにより、5Sや品質管理、加工技術を高めて、日本の中小企業となんら遜色のないレベルに向上しております。

これは、人から聞くよりも、実際に行って現場を見ないとわからない事でもあります。しかし、県内には取引先から海外展開を迫られているにもかかわらず、地域の雇用を守るために海外進出は絶対にしないという企業経営者が多く見られます。こういった企業は取引先のグローバル調達が進んでいるので、実際に新規の仕事が来なくなっている現状に気が付かない「ゆでがえる」状態になっています。

私は、こういった企業から海外ミッションへ参加して頂き、海外の実情を見て経営者自身から現地・現物・現実で判断して頂き、今後国内ではどうしたら生き残れるか、どのような目的で海外に進出するかを見極めて頂きたいと考えております。

また、業務上、自身で解決できない案件等については、様々な分野で活躍されているMOT卒業生のネットワークを活用させて頂いております。現在も同期生とはFacebook等でつながっており、卒業して離れた場所にいても、身近に感じることが出来ます。

・そのほか

卒業してからまもなく、娘のバレーボールスポ少の指導者になりました。小さいチームながら堅実なレシーブと強いサーブを武器に、そこそこ強いチームでしたが、あと一歩何かが足りないものがありました。さっそく、MOTで学んだSWOT分析とゲームの内容を解析してみました。

小学生のバレーボールはポジション固定で、レシーバーはレシーブ専門、アタッカーはアタックが中心となっていますが、小さくても身体能力の高い児童が多かったので、全員がアタックを打てるチームを目指しました。レシーバーだった児童は、自らがアタックをするために、レシーブの精度が高くなりました。父兄の協力を得て、毎試合データを収集し、グラフ化して児童たちにも説明したら、試合内容も向上し、約100セットの試合を行い、70%を超える勝率で県内外の上位チームとも渡り合えるレベルに成長できました。私は、スポ少指導の傍ら、毎年ソフトバレーとどろんこバレーの大会へ出場しております。今年大蔵村で開催された大会では、息子たちと参加して優勝することができました。泥の中では、足をとられてうまく動くことができないけれど、泥の中へのフライングは最高です!。

どろんこバレー大会で優勝しました！
息子さんたちと一緒に。

グローバル時代に求められる国際人材シンポジウム開催報告

「テーマ」 国際競争を勝ち抜くための人材育成と確保

とうほくMITRAIコースの支援組織である、もっとみらいコンソーシアム主催の総会及びシンポジウムが開催されました。当コンソーシアムも多くの会員の皆様に支えられて留学生の支援事業を行ってきておりますが、今年度で4周年目を迎えることが出来ました。

【日時】 平成25年5月15日（水）15：00～
【場所】 山形大学工学部百周年記念会館
【挨拶】 山形大学大学院理工学研究科教授
・とうほくMITRAIコース長
高橋　幸司氏
【講演】
とうほくMITRAIコースの現況と今後
・山形大学大学院理工学研究科
准教授　野田　博行氏
地域に貢献する山形大学の国際化教育
・山形大学大学院理工学研究科
准教授　仁科　浩美氏
日本語講師として海外赴任で感じること～誤解を受け易い日本語教育～
・海外日本語学校講師　野村　研三氏
【在校生発表】
とうほくMITRAIコース在校生
【閉会挨拶】山形大学大学院ものづくり技術経営学専攻長・児玉　直樹氏

野村研三氏による基調講演

日本国内では、少子高齢化による市場縮小と熟練工の大量退職、恒常的な財政赤字、若者の内向き志向などによって、国際競争力の相対的な低下など課題が山積しております。このような中で、日本企業の事業展開や生き残りのためのカギとなるのが、世界を舞台に活躍できる優秀な国際人材の確保と人材育成のための仕組みつくりです。

シンポジュウムではこれらの視点から、これからの時代を切り拓くための「国際人材の育成」に焦点を当てた論議を取り交わしました。

野田先生からは、とうほくMITRAIコースの現状と今後の展開について具体例をあげて内容に関し紹介がありました。また仁科先生からは山形大学の留学生教育の実態と、教育を通じて地域に貢献する学生の姿について報告がなされました。

引き続き野村研三氏からは、日本語教師として赴任したベトナムの日本語学校での生活や、学生達との交流を通して感じた若者の気質・日本の若者との違いなどについて、ユーモアを交えてお話を頂きました。

第2部の懇親会は、カフェ吾妻（2F）にて行われましたが、留学生を囲んで大勢の参加者で楽しい・有意義な集いとなりました。

在校生による自己紹介の様子
（右端は、司会の綾部誠先生）

「コーヒーブレイクで、こんにちは！」

MOT2期生の、江口幸也様です。

現在江口さんは、財団法人山形県産業技術振興機構にて産学官連携コーディネーターとしてご活躍です。OBの皆様のお役に立てることがあればと笑顔でお話いただきました。

今年は上のお嬢様が就職、仙台でのアパート探しには苦労されたものの、肩の荷がおり、下のお子様も来年は就職だそうです。

子供の成長と共に第二の人生を奥様と考え始めたというまだまだお若い江口さん、たくさん夢が広がっているようで、私もあやかりたい！と感じました。

《インタビュー：黒田三佳編集委員》

ラジオ深夜便　誕生日の　花と短歌　365日

短歌とエッセー　鳥海昭子（編集：発行NHKサービスセンター）

8月31日（本誌の発行日）の花は、「ホウセンカ（鳳仙花）」です。
花言葉　：　快活
短歌　　：　さわやかに　種をはじけり　ホウセンカ　ホウセンカ赤し　晩夏夕暮れ

皆様もご体験済みですか？私もいつの頃からか定かではありませんが、充分に睡眠が足りて早朝に目覚めるようになりました（笑）。四時を過ぎると、まだ真っ暗だったり、ほんのりと明るかったり、季節によってさまざまな目覚めが訪れます。そしていつも五時少し前になると、NHK第一放送から「誕生日の花と短歌」のアナウンサーの声が穏やかに、ゆっくりと、心地よく耳元に流れてきます。
そして自分は呟くのです、また今日も元気にスタート出来る！と。　（某編集委員）

「ＭＯＴ広場」 『H25 産学連携夏季セミナー』が開催されました。

平成25年8月28日(水)、米沢電機工業会主催の「産学連携夏季セミナー」がすこやかセンターを会場に開催されました。

本セミナーは毎年開催されており、今年度で第32回を迎えております。長期間に渡り米沢電機工業会と山形大学の若手研究者の組織が地域の資産(研究シーズ・製造技術)をテーマに、産学交流と地域の活性化を目指し息の長い活動を継続してきております。我Y－MOTネットワークも一昨年から共催させて頂いております。

【日時】 平成25年8月28日(水)13:00～

【場所】 すこやかセンター

【セミナー発表】

①「火災・爆発事故の予防技術」山形大学大学院理工学研究科・准教授 桑名 一徳 氏

②「医療機器事業の取り組みについて」フジクラ電装㈱機器電装事業部・開発課課長 熊坂利治 氏

③「ヘルスケア・エージェントシステムの研究」山形大学大学院理工学研究科・准教授 横山道央 氏

④「バリ無し打ち抜き及び接合工法開発と市場課題解決」㈱ソルテック生産技術部・浅間勇人 氏

以上、大学側から2名、企業側から2名の講師による発表がありました。約50名の参加者により、発表に対する真剣な質問・討議が行われました。

発表する㈱ソルテック 浅間勇人氏（MOT－5）

特にこのセミナーの特徴的な点は、時には企業秘密・ノウハウ的な内容についても公開されてしまうケースがあり、連携意識の強い集団とも言えます。第2部の懇親会も大いに盛り上がり、研究者と企業メンバーの懇親が図られました。是非、次回はMOTのメンバーの方々もご参加下さい。

大勢の参加者で埋まったセミナー会場

懇親会での開会挨拶は杉本俊之先生、産学交流の本番はこれから・・・・・と。

（Y－MOTネットワーク特別セミナー案内）・・・・・観光経営工学特論の講師による特別講演

「ものづくりとサービス工学」－サービスとの一体提供により、製品を創る・磨く・鍛える－

講師：東京大学人工物工学研究センター准教授　原　辰徳　氏

平成25年9月27日 (金) 15.00 ～ 16.30　於：山形大学工学部100周年記念会館1F セミナールーム

（開会挨拶）高橋　幸司　先生　これからのものづくりでは、製品にサービスを載せて提供することが求められます。講師の原先生は、「サービス産業の生産性向上」と「製造業製品のサービス化」を実現するために必要な基礎理論の構築を目指し、ものづくりの設計に活かされてきた工学技術を用いて、サービス工学の研究を進めてこられております。 今回のセミナーでは、サービス工学の考え方を従来の工学に付与することによって生み出される新たな価値の創造や効果の可能性に加え、原先生が構築した具体的なソフトウェアについてレクチャーして頂きます。

定員：40名　参加費：無料　《申込先》：MOT事務局　鈴木　0238-26-3622、 渡邉（090-3123-1485）まで。

≪編集後記≫

これまでに経験したことのないようなゲリラ豪雨！地震！竜巻！この世はどうなるのでしょうか？地球温暖化の影響と思われる出来事が身の廻りで頻発してます。アメリカのある大学の研究グループの報告に、温暖化により猛暑や干ばつなどの異常現象が増えると、個人レベルの暴力行為や内戦などのグループ間対立、文明の崩壊に至るような様々な紛争が起き易くなる、とありました。

暴行や殺人、内戦や民族紛争、政治権力の交代や文明崩壊などと気候変動の関係を調べた文献を分析、統計的手法でデータを再評価し、自然環境が変動すると社会的な不安定が増すことを確かめました。具体的な例として、中米のマヤ文明の崩壊は干ばつによるものであり、アフリカで年間気温が0.6度上昇すると、グループ間対立が14%、個人間の暴力が4%増えると分析してます。最近の日本も予測の出来ない事態が起こっておりますが、平和で穏やかな生活を守り、維持したいものです。 <編集委員一同>

MOT事務局より、大学の動きやMOT専攻に関わる情報をお知らせ致します。

≪MOT事務局便り≫

・工学部長に飯塚博先生が再任されました。なお副学部長には森秀晴先生（研究担当）、児玉直樹先生（教育担当、MOT専攻長兼務）、中島健介先生（入試担当）が就任されました。

・平成25年10月入学者は8名の方です。価値創成コース2名（社会人）、とうほくMITRAIコース6名（ボリビアからの国費留学生4名、中国からの私費留学生2名）。

MOT事務局